

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 4 年 11 月 15 日

氏名 中村 優

所属 基礎教育学 コース

指導教員名 小玉 重夫 教授

1. 研究課題 教育における「国家—市民—道徳」—高坂正顕の思想に着目して—
2. 計画する学術活動の実施期間 令和4年10月10日 ~ 令和4年10月17日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に :)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	③
<p>調査先機関：米国国立公文書館 国名・都市名：アメリカ合衆国メリーランド州カレッジパーク 住所：National Archives at College Park 8601 Adelphi Road College Park, MD 20740-6001</p> <p>具体的な活動：RG306 Records of the U.S. Information Agency, 1900-1923 に関連した資料収集 収集した資料(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Report on USIS-Japan, June-July 1959 (邦訳済み、国内未公開の資料) - The Board of Foreign Scholarships, International Educational Exchange -The Opening Decades, 1946-1966- A Report of the Board of Foreign Scholarships, 1966 (未邦訳資料) - U.S. Embassy Tokyo, File 511.943/4-155; Central Decimal Files 1955-1959 (CDF 1955-1959) (未邦訳資料) - Department of State Instruction, File 511.943/11-1755; CDF 1955-1959 (未邦訳資料) - Department of State Instruction, File 511.943/12-1355; CDF 1955-1959 (未邦訳資料) <p>活動期間 2022年10月12日～2022年10月14日(3日間) 活動内容 10月12日 利用者登録、資料請求方法の確認、Report on USIS-Japan の収集 10月13日 Central Decimal Files 目録調査、分類番号511.943 の資料請求 10月14日 CDF 1955-1959 の資料群収集</p> <p>調査先の概要：米国国立公文書館は、政府書類や歴史関係書類が所蔵されている公文書館である。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本報告書における学術活動の目的は、京都大学におけるアメリカ政府の外交機関 USIS (U. S. Information Service) の活動について、高坂正顕に着目してあきらかにするという問題のもと、そのようすが報告書としてまとめられた“Report on USIS-Japan” ならびに、関連資料を入手するためにアメリカの公文書館に赴くことであった。

成果として“Report on USIS-Japan” の原文資料を収集した。同じく成果として収集を予定していた“Case Study” の原文資料は見当たらなかった。“Case Study” の原文資料は、それが収集されていると思われる Box について事前にアメリカ公文書館側から教えてもらっていたが、実際には Box 内には資料が存在しなかったことによる。さらに研究を遂行するにあたり重要な追加資料を見つけた。これは事前に見込んだ以上の成果である。具体的には、5. に記載した未邦訳資料を収集したことを示す。資料は、高坂正顕の渡米のようすをより明確にするものであり、また今回収集した未邦訳資料がそのことをあきらかにした点に、この学術活動の成果があると言える。

上記を踏まえ、申請者は教育史学会の機関誌『日本の教育史学』第 66 集の投稿論文「アメリカの反共戦略と高坂正顕—USIS における活動に着目して—」を執筆し、10 月 31 日に投稿した。今後投稿内容を踏まえて、本研究科主催の「グローバル・リーダー育成：欧州研修プログラム」など国際的な学術交流の場での発表も予定している。

上記の研究課題は、日米間の文化外交の文脈に位置づけられることから国際的な視野をもつ研究であり、研究成果を海外に発信することの意義のある研究と言える。このことから本報告書における学術活動を国際研修と位置づけ遂行したことをここに報告する。